

バンコクの風

ลมจากกรุงเทพฯ

日本学術振興会バンコク研究連絡センター 活動報告（2012 年 7 月～9 月）



【シリントン王女をお迎えするセンター長】

着任 3 か月の感想

JSPS バンコク研究連絡センターに着任して約 90 日となりました。この間に実施した様々な事業、大学への訪問、国内外の出張などについては、センターのウェブサイトで詳細に報告されているので、それを見ていただければと思いますが、これらの実施に際して、田辺副センター長、カイ現地職員そして大槻研修員が、「年長者を大切にする」というタイ国の人々の気風そのままに、私を支えてくれ、センター長として無事テイクオフできたことに感謝したいと思います。

テイクオフをした以上、墜落も不時着（事業計画の中止もしくは延期）を起こさないよう操縦桿をしっかり握っておきたいと思います。バングラデシュ同窓会や NRCT との合同セミナーの実施、フィリピンやベトナムでの同窓会の設置への支援、さらにはアセアンに焦点を当てた「世界展開力強化事業」がまもなく採択されますが、それを実施される諸大学への支援などに最大限の配慮をしながら、センターの運営を行っていこうと思っています。

海外センターの強化は、JSPS の中期計画の柱の一つになっていますが、なかでも、バンコクセンターは、国際協力員の配置枠がないなど、弱小センターの一つです。今後のアセアンを含めたアジア諸国との学術交流を促進するためにも、バンコクセンターの強化のために努力していきたいと思っています。

山下邦明・センター長

主な活動と目次

7月

1 日	山下邦明センター長着任	P. 3
4 日	旭硝子財団によるキングモンクット工科大学への助成式典を視察	P. 3
7 日	立命館アジア太平洋大学タイ事務所開所式	P. 4
9 日	金沢大学 古内教授来訪	P. 4
18 日	北海道大学 正木幹生シニアコーディネーター来訪	P. 5
〃	サーミットタワー10 階定例情報交換会	P. 5
24 日	ユネスコ・バンコク事務所を表敬訪問	P. 5
30 日	チュラロンコン大学を表敬訪問	P. 6
インタビュー バンコクに君がいて 第一回 山本剛 日本学生支援機構タイ事務所所長		P. 6

8月

3 日	JSPS アジア副センター長会議の開催	P. 8
9 日	タイ環境研究所を表敬訪問	P. 8
10 日	国内大学表敬訪問 11 ナレスワン大学	P. 8
13 日	ベトナム JSPS 経験者を訪問 Dr. Do Van Truong	P. 9
～	ベトナム・ユネスコ協会連盟を表敬訪問	P. 9
15 日	ベトナム科学技術省を表敬訪問	P. 10
17-31 日	科学技術展 2012 への出展	P. 10
26 日	JSPS-NRCT セミナーを開催	P. 10
27 日	JSPS タイ同窓会 (JAAT) セミナーを視察	P. 12
レポート あさひさんが行ってきた タイの大学事務部体験記		P. 13

9月

5 日	サーミットタワー10 階定例情報交換会	P. 15
11 日	在バングラデシュ日本大使を表敬訪問	P. 15
～	ムハマド・ユヌス ノーベル平和賞受賞者を表敬訪問	P. 15
13 日	JSPS バングラデシュ同窓会 (BJSPSAA) 理事会に出席	P. 16
20 日	第 9 回 JSPS タイ同窓会 (JAAT) 理事会を開催	P. 16
	池島元センター長の来訪	P. 17
21 日	ナレスワン大学 Dr. Antonio 来訪	P. 17
24 日	北陸先端科学技術大学より池田教授来訪	P. 17
26 日	田辺副センター長離任のため帰国	P. 18
概要報告 「タイ国の科学技術政策・計画概要」		P. 18

コラム あさひさんのタイ燦々 P. 19

コラム カイさんのタイご案内 P. 20

■ 山下邦明センター長の着任

<http://jsps-th.org/?p=2926>



【山下センター長と安西理事長（理事長室）】

以下、センター長挨拶。

竹内渉氏の後を受け、2012年7月1日付けでJSPS バンコク研究連絡センター長に着任しました。個人的な経歴を申し上げるなら、本年3月末に九州大学を定年退職しましたが、9年間在職しました九大では、言語文化研究院長、総長特別補佐（国際交流担当）また経営協議会委員などを歴任させていただきました。九大に奉職する前の約10年間、ユネスコ（国連教育科学文化機関）のパリ本部事務局対外関係・協力局プログラム・スペシャリストとして加盟国とのリエゾン的な仕事に従事してきました。

これらの経験を生かし当センターのミッションである東南アジア・南西アジア諸国との学術を通じた人的交流とネットワーク構築の促進に努力したいと思っております。関係各位のご支援並びにご協力をお願い申し上げます。

2012年7月1日（日）、JSPS バンコク研究連絡センター第16代センター長として山下邦明 元九州大学大学院言語文化研究院・院長が着任されました（勤務は7月2日より）。

任期は2年の予定で、タイ環境研究所（TEI: Thailand Environment Institute）をカウンターパートに、タイの学校教育におけるESD（持続可能な開発のための教育）について共同研究を行います。

■ 旭硝子財団によるキングモンクット工科大学への助成式典を視察

<http://jsps-th.org/?p=2937>



【Dr. Bundit 教育担当副学長と田中理事長】

と。これにはAGC 旭硝子社がタイ国内で操業している7つの現地法人におけるKMUTT卒業生の働きぶりが評価されたということで、なかには工場長にまでなられている方もいるそうです。

2012年7月4日（水）、キングモンクット工科大学 トンブリー校（KMUTT: King Mongkut's University of Technology Thonburi）が2012年より当面3年間、日本の旭硝子財団による研究助成の対象となったことを祝って開催された Research Grant Awarding Ceremony に招待をいただきました。

旭硝子財団は1982年（昭和57年）以降、タイでチュラロンコン大学（Chulalongkorn University）に対して海外研究助成を続けてきましたが、このたび KMUTT をタイで2番目の助成対象校としたとのこと。

■ 立命館アジア太平洋大学タイ事務所開所式

<http://jsps-th.org/?p=2956>



立命館アジア太平洋大学がタイ事務所を開設し、その記念式典が催されました。事務所は当センター最寄りです。今後の連携を探っていきたいと思います。

APU Thailand Office

Room 1015, 10th Floor, Serm-mit Tower, 159/16 Soi Asoke, Sukhumvit 21 Road, Wattana, Bangkok 10110, Thailand

Tel/Fax: +66-(0)2-665-7145 Email: Thailand@apu.ac.jp Web: www.apu-thailand.com

■ 金沢大学 古内教授来訪

<http://jsps-th.org/?p=2949>



【大槻研修員と古内教授】

金沢大学は現在、バンコク市内キングモンクット工科大学トンブリー校に事務所をお持ちですが、タイ南部プリンスオブソンクラ大学にも事務所を設置する方向とのこと。

国際系的の事務職員の育成を重視しており、将来的には同大学のバンコク事務所や当センターでの事務職員の研修も視野にあるそうです。

当センターからは、現在受け入れている研修員の実際の感想を交えながら、提供している研修内容について説明いたしました。

当センターで研修を行うメリットとしては、

- ・ 事業紹介や打合せ等に同行することで生きた英語を使う機会が得られる点
- ・ バンコクだけでなく様々な地域における研究者の雰囲気やニーズを知ることができる点
- ・ タイの大学をはじめとしてさまざまな機関のトップの方々と直接会う機会が得られる点

などが挙げられます。なお、タイ国内には語学学校も多く、日本よりも低予算で受講できるため、東京農工大学のように英語研修を軸に独自の実地研修プログラムを策定することも可能です。

■ 北海道大学 正木シニアコーディネーター来訪

<http://jsps-th.org/?p=3027>



北海道大学では近年、学部学生の短期海外派遣に力を入れており、ファーストステッププログラムとして、昨年度はラオス・シンガポールへ2週間、今年8月にはフィンランドへ2週間派遣し、来年2月にはタイへ2週間派遣のプログラムを計画しているとのことです。

【正木コーディネーターとセンター長】

■ サーマットタワー10 階定例情報交換会

<http://jsps-th.org/?p=3030>



国際交流基金に福田和弘 所長が着任されました。
(写真一番左)

■ ユネスコバンコク事務所を表敬訪問

<http://jsps-th.org/?p=3038>



現在、ユネスコでは予算の大幅減により、新たな職員採用ができない上にプロジェクトの数も減らさなければならないという難局を迎えているそうです。

パレスチナがユネスコに加盟し、これに伴って米国国内法により米国の分担金支払いがストップしたことによるものです。

【左端が Mr. Gwang-Jo Kim ユネスコ・バンコク事務所長。右端は Mr. Danny Padilla ESD Coordinator and Liaison Officer】

■ チュラロンコン大学を表敬訪問

<http://jsps-th.org/?p=3044>



新センター長のタイでの活動の第一弾として、Dr. Pirom Kamolratanaku チュラロンコン大学学長にお会いしました。

チュラ大は平成24年度JSPS大学の世界展開力強化事業の申請のうち約70%でカウンターパートとして選ばれる国内屈指の大学です。

【中央左が Dr. Pirom 学長、その右隣は Mr. Kriangsak Buranapatama 学長補佐】

■ インタビュー

バンコクに君がいて

少数体制の当センター。不意に一人で仕事をしているかのような不安に陥ることも。この恐ろしい錯覚を打破してくれるのが近隣関係者であり、カウンターパートや訪問先の人々であり、あるいは来訪者の皆さんです。そんな方々にお話を伺いながら、当センターのあり方を考えるヒントを見つけていければと思います。

記念すべき第一回として、当センターのオフィス共用者である JASSO タイ事務所、その着任間もない新所長 山本剛（やまもと・ごう）氏 にお話を伺いました。前職は JASSO 政策企画部総合計画課企画係主任。行革対応等を担当。2011 年度中の JASSO タイ事務所と JSPS バンコク研究連絡センターの共用開始もその一環でした。また、JASSO に入る前は、日本語教師として2年間タイのチェンマイに滞在しておられました。

——就任から約2ヶ月。ここまでの感触・感想はいかがですか？

7月より赴任しております山本と申します。よろしく申し上げます。前職は JASSO の管理部門で、2010 年 12 月には現地事務所視察で JSPS の旧事務所にもお邪魔しました。その時は田辺さんともお話しさせていただいたんですが、覚えておられましたか？

着任早々から JASSO 主催の日本留学フェアの現地での準備や、現地の機関が行う留学フェアの実施に向けた調整等もあって、正直、慌ただしい2ヶ月でした。けれど、おかげさまで JASSO 主催

の留学フェアは
チェンマイ 494
名、バンコク

1,699 名の来場者があって、盛況のうちに終わることができました。ご協力いただいた皆様、どうもありがとうございます。

——JASSO 本部から JASSO タイ事務所へ。心がけ、希望、目標など胸に秘すものは？

法人全体のとりまとめを行う部署から、最も現場に近い、それも外国へ異動になって、業務内容はそれこそ 180 度変わったような気がしますが、



仕事の基本はどこでもそれほど変わらないと思っています。イベントもひと段落したので、JASSO 全体の事業やタイ事務所の運営がよりよくなるよう力を向けていきたいです。在タイの日本機関の所長としてはずいぶん若輩ですが、皆さんに引けを取らないようしっかり仕事したいですね。

タイを含めて、JASSO 海外事務所は JASSO 留学生事業部内の一つの部署という位置づけです。つまり留学生支援事業が主なミッションです。ですから、そのままといえばそのままですけど、やはり留学生交流の推進を通じた日タイの交流促進を図りたいですね。

——JSPS バンコクとのオフィス共用は実現しました。JSPS を含め、今後の他機関との連携は？

その節はまことにお疲れさまでした。おかげさまで私は最初から「おとなりさん」として自然にお付き合いを始めることができているわけで、その差はずいぶんと大きいだろうと思います。

JSPS の他には、日本留学フェアで国際交流基金に文化紹介をしていただいたり日本語能力試験の体験セミナーを実施いただいたりと、こちらもいい方向に進んでいると思っています。タイ国内の高校を訪問しての日本留学説明会では、在タイの日本の大学の方々に参加いただいていますし、これからも関係各所と様々に協力していければと思っています。

——これからの抱負を教えてください。

留学生事業にしっかりと軸足を置きながらも、元行革対応担当者として日々細かな注意を払う山本所長。ご赴任以来すでにタイ政府主催の科学技術展で部分的にブースを共用するなど、事務所の共用から事業の共用へと次の一步を踏み出す頼もしいパートナーです。来年1月、当センターでは、世界遺産とツーリズムを軸に持続可能社会を考えるセミナーを開催する予定で、これには JASSO だけでなく国際交流基金や日本政府観光局の協力も仰ぐつもりでありますが、こうした連携の拡大も、JASSO と日々積み重ねる成功体験を自信と勇気の源としています。今後とも手を取り合いながら事業運営をしていきたいと思っています。

(聞き手：田邊副センター長)

個人的には、タイ語に磨きをかけたいと思っています。あとはタイ国内のあちこちに出かけて行って見聞を広げたいですね。日頃はどうしても「留学」や「大学」に頭が行ってしまうので、その点、このインタビューの趣旨もわかる気がしますね。いわゆる関係者の他にも、タイには、日本からの派遣者、現地で起業された方、結婚された方など本当に様々な方がいて、そういう方々からは面白い話が聞けますし、必ず何かしらのヒントがあるものです。なので、そういう方々と話し、タイの方々とも話し、ゆくゆくは「タイのことなら何でも聞いてくれ」と言えるくらいになりたいですね。

——貴重な同世代である山本さんに来ていただいて嬉しかったです。JSPS バンコクの副センター長は若手で推移していく気配ですので、引き続きよろしくお願いします。

平成18年度途中まで文科省へ研修派遣されていましたが、その時の友人と田辺さんが一緒にアメリカ研修へ行かれていて、しかも私のバンコク赴任時に揃ってバンコクにおられたという偶然でした。おかげさまで親しくさせていただき、ありがとうございました。京都大学へ戻られた後も何かしら関わりはあるでしょうから、その時はよろしくお願いします。後任の方も京大から来られるということで、引き続き、困った時には助け合いながら業務を行っていきたいと思います。ありがとうございました。

■ JSPS アジア副センター長会議の開催

<http://jsps-th.org/?p=3063>



2012年3月にフランスで開催された欧州副センター長会議に続く域内副センター長の意見交換会で、毎年4月のセンター長会議とは別に、実務者レベルでの情報交換を目的とするものです。

JSPS が大学連携型法人に位置づけられた中で海外センターとしてどのように大学との連携を図っていくか、同窓会支援における留意点など、双方の副センター長が胸襟を開いて話し合いました。

【左から2人目が水野・北京副センター長】

■ タイ環境研究所を表敬訪問

<http://jsps-th.org/?p=3067>



タイ環境研究所 (TEI: Thailand Environment Institute) は環境教育を中心に国内の郊外地域における持続可能な発展を支援する研究期間で、山下センター長の2年間の滞在期間中の共同研究相手でもあります。

【Dr. Chamniern Paul Vorratnchaiphan, Senior Director, TEI (左から2番目) と一緒に】

■ 国内大学表敬訪問 11 ナレスワン大学

<http://jsps-th.org/?p=3074>



ナレスワン大学は1967年に教員養成大学として設立され、その後シーナカリン・ウィロート大学 (Srinakharinwirot University) のピサヌルーク・キャンパスとして再編、1990年に単独のナレスワン大学として承認されました。

伝統的に教育をはじめとした社会科学に強く、近年では外国語教育にも力を入れていて、日本語学科では200人の学生に対して20人の教員を擁しています。

【センター長と Prof. Dr. Sujin 学長との記念品贈呈】

非常に印象的なのは、何よりもまず Prof. Dr. Sujin 学長の人柄です。これまでお会いしてきた学長や副学長先生の中でも群を抜いてご高齢であること、そして、登場されるや周囲の空気がピリッと引き締まるような雰囲気は「偉い先生なのに朗らか」という、この国では馴染み深い学長像とは明らかに異なるものでした。農地や稲作に関する研究方針を明確に示されるほか、研究プロジェクトにおける計画性や組織構成の重要性を副学長の先生方にまで一つ一つ説かれる姿は、大学における偉大な父親のようです。

今後、Assoc. Prof. Dr. Sukhgij Ysothonsereekul 研究・渉外担当副学長をおもな窓口として日程調整を行っていくこととなりました。

■ ベトナム JSPS 経験者を訪問

<http://jsps-th.org/?p=3089>



ベトナムでの同窓会設立の主な目的は JSPS の顕在化であると、Dr. Do Van TRUONG は考えています。全体的に採択人数が少ないこともさることながら、VAST からの採択者が多いため VAST 外での知名度は低く、申請希望者にとっては情報が不足し、採択経験者にとってはステップアップにつなげにくいといった問題意識があることがわかりました。

【Dr. Truong はハノイ科学技術職業大学の副学長になっておられました】

■ ベトナム・ユネスコ協会連盟を表敬訪問

<http://jsps-th.org/?p=3093>



ベトナム・ユネスコ協会連盟本部（VFUA: Vietnam Federation of UNESCO Associations）はベトナムで唯一、首相直々の決定により設立された NGO で、ベトナム外務省傘下で後援を受けております。Mr. Nguyen Xuan Thang 会長は外務省や内務省のほか、教育省、文化省、科学技術省、情報省など、ユネスコのカバーするおよそ全ての範囲で幅広い人脈をお持ちです。

【中央が Mr. Thang 会長】

■ ベトナム科学技術省を表敬訪問

<http://jsps-th.org/?p=3097>



VFUA の Mr. Thang 会長のご厚意により、ベトナム科学技術省 (MOST) を訪れました。ベトナム同窓会支援に向けて望外の好感触を得ることができ、今後、Dr. Trong を中心に会合の設定を行う予定です。

【中央 Ms. Le Thi Viet LAM, Deputy Director-General, Department of International Cooperation (DIC)

左 2 人目 Ms. Hoang Ngan GIANG, Official, Asia and Africa Division, DIC】

■ 科学技術展 2012 への出展

<http://jsps-th.org/?p=3133>



2012 年 8 月 17 日～31 日、BITEC (Bangkok International Trade and Exhibition Centre バンコク国際貿易展示場) にて開催の科学技術展 National Science and Technology Fair 2012 へ、例年同様にブース出展を行いました。

今年は JASSO タイ事務所と部分的にブースを共用し、事務所の共用から事業の共用へ、第一歩を踏み出す格好となりました。

【在タイの日本の大学をフィーチャーしたブース展示】

■ JSPS-NRCT セミナーを開催

<http://jsps-th.org/?p=3139>



8 月 26 日 (日)、バンコク市内 Bangkok Convention Center at Central World にて、JSPS-NRCT Seminar at Research Expo 2012 「Advanced research in Japan - ASEAN Economic Community and Disaster Management」を開催しました。

8 月 24-28 日に NRCT 主催で行われた Thailand Research Expo 2012 の一環として開催されたもので、2009 年以来毎年、NRCT と当センターとの共催で開催しています。例年、様々な分野の研究者を日本からお招きして講演いただいてきました。

【ご挨拶いただいた Dr. Jintanapa Sobhon 研究顧問。今後の NRCT 内における JSPS 関連キーパーソン。教育学博士】

4月12日のNRCTとのミーティングにおいて提示された7つのエキスポ・テーマのうち、最初の2つに挙げられていた

1. Research for the Formation of ASEAN Economic Community (AEC)
2. Research for Disaster Management

に焦点を絞り、京都大学東南アジア研究所 Dr. Pavin Chachavalpongpun 准教授と東京大学生産技術研究所の川崎昭如准教授をお招きし、ご講演いただきました。



【Dr. Pavin 京都大学准教授



川崎東京大学准教授



Dr. Manop チェンマイ大学講師】

“Comparing the disaster information gathering behavior of Thai and Japanese during the 2011 Thai Flood and the Tohoku Earthquake and Tsunami disaster”

・**Dr. Akiyuki Kawasaki**, Associate Professor, International Center for Urban Safety Engineering, Institute of Industrial Sciences, The University of Tokyo

・**Dr. Manop Kaewmorachoen**, Assistant Professor, Natural Disasters Research Unit (CENDRU), Civil Engineering Department, Chiang Mai University

災害が引き起こす経済的損失など負のインパクトを、大規模なアンケート調査など社会学的なアプローチを用いて分析した結果が報告されました。多言語での調査により、2011年、日本の地震・津波およびタイの洪水に際して、外国人と自国民の情報収集ツールと行動の違いが明らかにされ、そこから、望ましいニュースソースのあり方が提案されました。

“ASEAN Community 2015: Real or Imagined?”

・**Dr. Pavin Chachavalpongpun**, Associate Professor, Centre for Southeast Asian Studies, Kyoto University

2015年アセアン経済共同体（AEC: ASEAN Economic Community）設立を目前にして、東南アジア各国はその準備に追われています。しかしながら、タイでは一般的な関心が低く、さらに、国内政治の影響により、元タイ外務大臣で現在ASEAN事務局長であるDr. Surin Pitsuwanの働きが実質的に制限されている状況が解説されました。



【関係者での写真撮影】

タイ社会が今もっとも熱い関心を抱く災害対応と ASEAN という、時勢に適した学術・実践トピックをタイ日両国の学術機関である NRCT と JSPS が的確につかみ、実施したという点は、大いに評価できるものと言えるでしょう。当センターとしては今後も、NRCT との緊密な連携を図り、タイ日両国の科学技術、社会研究の促進に努めていきたいと思っています。

■ JSPS タイ同窓会（JAAT）セミナーを視察

<http://jsps-th.org/?p=3118>



Thailand Research Expo 2012 の一環として JSPS タイ同窓会による学術セミナー「Academic initiatives' help to foster the Thai rice farmers and farming sector」が開催されました。講演者は JAAT のメンバーのほか、Mr. Prasit Booncheui タイ稲作農民協会会長や Prof. Dr. Somchai Baimoung タイ気象局副所長などで構成され、様々な側面からタイ農業のさらなる可能性を探る議論が交わされました。

【左から Dr. Dr. Jintanapa、Prof. Dr. Somchai、Prof. Tasnee、Dr. Busaba、センター長、Assoc. Prof. Dr. Porphant、Mr. Prasit】

講演題目は以下の通りです。

Thai farmer's Problems

- Mr. Prasit Booncheui, President of Thai Rice Farmers Association

Thai farmer: From high income to low income

- Assoc. Prof. Dr. Porphant Ouyyanont, Sukhothai Thammathirat Open University

Cost reduction on Thai rice farming (presentation slide)

- Prof. Tasnee Attanandana, Kasetsart University

New technology for improving rice farming

- Prof. Dr. Somchai Baimoung

Outside boundary: Creative rice products for increase income (presentation slide)

- Dr. Busaba Yongsmith, Kasetsart University

■ レポート

あさひさんが行ってきた

大槻朝比さんは東京農工大学の事務職員で、JSPS 海外協力員制度とは異なる当センター独自の試みとして 2012 年 4 月から 9 月まで約 6 ヶ月間、当センターで受入れた研修員です。様々な業務に参加してもらい補佐業務を行ってもらいましたが、彼女の本文はあくまで東京農工大学独自の研修制度の実践であることから、当センターでは関知しない活動も行っております。その一つが、タイの大学の事務部での実地研修で、どちらも有力大学であるマヒドン大学 (Mahidol U.) とカセサート大学 (Kasetsart U.) の事務組織に滞在されました。その様子を伝えてまいります。

この 6 ヶ月間のタイ滞在中に、JSPS 研修生として多くのタイの大学を訪れましたが、それとは別に東京農工大学職員として 1~3 週間ほど、いくつかのタイの大学に滞在しました。そこで気づいた日本の大学との違いについて報告します。

■ 始業・終業について

タイ人は、時間にルーズだとよく言われます。確かに大学の事務職員の勤務時間は日本ほど厳格ではなく、許容範囲は 30 分~1 時間程度あるように思われます。しかし、タイムカードを打っているところもあり、一般的なイメージほど時間に無頓着であるわけでも無いようです。一流企業であればあるほど、やはり時間への意識は高いとのこと。

また、出勤後に食堂などへ行って朝食を取るということも許されるようです。私も、職員と一緒に出勤後、朝食のため席を立ったことがあります。昼休みも各自適宜取ることになっているようで、特に誰かに席を空ける旨伝えずに出かけ、大体 1 時間弱ほどで戻ってくるのが慣例となっていました。

ですが、退勤時間になったら何が何でも帰宅するというわけではなく、もちろん仕事が忙しい日は遅くまで残業することも珍しくないそうです。

■ 命令系統について

日本の国立大学の多くでは、事務職員と教員の命令系統は基本的に別になっており、事務職員の

直属の上司が教員であること、またその逆の場合もあまり一般的ではありません。しかし、タイの国立大学は必ずしもそうではないようです。例えば、学部内に国際プログラムの担当事務所が設置されている場合、事務の総括ポストの多くは中堅以上の教員が担当しています。また、特にはっきりとした役職が無くとも、国際業務担当の教員が留学生担当の事務職員に具体的な業務の指示を出すような場合もあります。

そこで、タイの大学では教員が事務職員の上であるというヒエラルキがはっきりしているという話を以前聞いたことがあったため、何人かの事務職員に質問してみたところ、確かにそういうところはあるとの回答でした。

ただしこの短期間の滞在中、どの事務所においても教員と事務職員との関係は大変良好であるように見えました。そこで、互いの協働関係をより円滑にするために特別な事を行っているか聞いてみたところ、どの大学の職員からも年に 1 度以上セミナーを開催しているという回答を得ました。これは主に業務改善ワークショップとも言えるようなもので、教員と事務職員が一緒にセミナーに参加し、より効果的に業務をこなしていくための手法を学ぶというものです。大抵このセミナーはバンコク郊外で開催される宿泊を伴うものであり、参加者たちは普段知らない互いの一面を知る良い機会として捉えているようでした。

また、お正月パーティーで教員のポケットマネ

一によるプレゼントが参加者全員に配られたり、年に10回ほどある仏教行事に部局の職員皆で参加したりもしているようです。



【マヒドン大学の皆さんと。左端は学部長先生】

■事務職員のバックグラウンド

日本では終身雇用が長く一般的ですが、タイでは転職することが一般的で、前職が複数あることは大学の職員も例外ではありません。また、タイの大学の職員の前歴は、別の大学であることも案外多いようです。

転職は欧米の場合のように必ずしもステップアップになるとは限らず、家が近いなど、就業条件がより良い所へ変更するという印象を受けました。私の滞在した大学はどれも国立大学であったため、賃金が一般企業と比べると高くはなく、優秀な人材の確保は日本と同様に大きな課題であ

るということでした。

■キャンパス内の福利厚生施設について

タイの大学の多くは広大な敷地を持っており、キャンパス内の移動にはトラムバスやバイクタクシーが欠かせないほどです。そのためか、いたるところに食堂やカフェ、コンビニエンスストアやスーパーマーケット、果ては郵便局や銀行の支店まで設置されています。そのうえ毎週決まった曜日には料理や雑貨、衣類等の屋台が並ぶマーケットが開催され、多くの人で賑わいます。ある大学に6日続けて通ったときは、毎日学内の異なるお店でランチを楽しむことができました。

タイの大学に一定期間通ううちに特に気づいたことは、どこも事務所の雰囲気が和やかであることです。小さな子供のいる人は夕方になると子供を連れてきて、事務所内で適当に遊ばせており、他の職員が子供の相手をすることもあります。このようなことは、育児に対する理解に加えて、心の余裕がないと出来ないことだと思います。忙しくとも笑顔を忘れない、そんなタイの文化がそうさせているのかもしれないと感じました。

（大槻朝比）

9月16日をもって大槻さんのタイでの研修期間は幕を閉じ、惜しみ惜しまれつつ、帰国されました。センター一同、今後のご活躍を期待しております。



【9月10日、田辺副センター長と合同で開催いただいた送別会。

後列左から、山本 JASSO タイ事務所長、山下 JSPS バンコクセンター長、関 大阪大学バンコク教育研究センター長】

■ サーミットタワー10 階定例情報交換会

<http://jsps-th.org/?p=3182>



この席での会話から着想を得て、世界遺産・ツーリズムを切り口に持続可能な社会を考えるセミナーを開催することとしました。「Japan as Destination」をキーワードに JASSO、JF、JNTO のお力をお借りして、オール・サーミットタワーとしての事業第一弾にしたい所存です。

■ 在バングラデシュ日本大使を表敬訪問

<http://jsps-th.org/?p=3186>



バングラデシュ人が日本に対して極めて親しい感情を抱いていることや、バングラデシュ人は国民性として同窓会活動に極めて積極的であること、また最近韓国がバングラデシュで勢いをつけていることなどをご説明いただき、BJSPSAA 活動の振興への励ましをいただきました。

【中央が佐渡島志郎 特命全権大使】

■ ムハマド・ユヌス ノーベル平和賞受賞者を表敬訪問

<http://jsps-th.org/?p=3190>



社会科学の立場から JSPS バンコク研究連絡センターの運営を探るセンター長の戦略的対話の一つと言えます。

タイとマレーシアを巻込んだソーシャル・ビジネスに関するセミナー等の開催をご提案いただきました。

【中央がムハマド・ユヌス博士】

■ BJSPSAA 理事会に出席

<http://jsps-th.org/?p=3193>



議論の末、2012 年 12 月 1 日（土）の開催で落ち着きました。発表テーマを絞ることで合意に至り、今後、経理的な面での詰めの作業を行っていく予定です。

■ 第 9 回タイ JSPS 同窓会理事会の開催

<http://jsps-th.org/?p=3228>



9 月 24 日、
田辺副セン
ター長送別
昼食会開催
が満場一致
で議決され
ました。

【前列左から Dr. Pornpen 登録担当、Dr. Jiraporn 接遇担当、Dr. Busaba 会長、Dr. Malee 財務担当、
後列左から田辺副センター長、Dr. Paritud 副会長、Dr. Boonchai 事務局担当、Dr. Porphant 広報担
当、山下センター長、池島元センター長、山田次期副センター長】

■ 池島元センター長の来訪

<http://jsps-th.org/?p=3234>



ラジャマンガラ工科大学（Rajamangala University of Technology）との共同研究での調査ということです。

【左：池島元センター長
右：山下現センター長】

■ ナレスワン大学 Dr. Antonio 来訪

<http://jsps-th.org/?p=3239>



イタリア人の Dr. Antonio。JSPS 外国人特別研究員事業により東京理科大学でポスドクの後、京都大基礎物理学研究所の田中教授の紹介でナレスワン大学に就職されることとなったそうです。
ご専門は宇宙論（Cosmology）。

【中央が Dr. Antonio De Felice】

■ 北陸先端科学技術大学より池田教授来訪

<http://jsps-th.org/?p=3245>



タマサート大学のシリントン国際工学部 (SIIT)、アジア工科大学院 (AIT)、NECTEC 及び JAIST（北陸先端科技大）の4者間で、4年で2つの学位を取得するデュアルディグリー・プログラムを実施されるということです。

【左から、Mr. Thepchai 主任研究員、池田教授、センター長】

■ 田辺副センター長離任

<http://jsps-th.org/?p=3205>



2012年9月30日、2010年7月26日からの2年2ヶ月の任期を終えて田邊寛明副センター長が離任しました。竹内センター長と1年11ヶ月、山下センター長と3ヶ月のバンコク勤務でした。

長い間、大変お世話になりました。ありがとうございました。(本人談)

【左から、NRCTのMs. Arpar 職員、大槻研修員、田辺副センター長、Ms. Aunchalee 現地職員（カイさん）。2012年8月26日撮影】

■ タイ国の科学技術政策・計画概要

<http://jsps-th.org/?p=3242>

2012年9月21日（金）、在タイ日本大使館で開催された科学技術連絡会にセンター長が出席しました。この連絡会は、バンコクにオフィスを置く科学技術の振興に関連する諸機関の情報交流を目的として、四半期ごとに開催されているものです。

今回は、各機関の活動概要の紹介、タイ科学技術博覧会の結果報告に加えて、「タイ国の科学技術政策・計画概要」(Thailand's Science Technology and innovation policy & plan 2012-2021)の紹介が Dr. Yada Mukdapitak, Deputy Secretary General, National Science Technology & Innovation Policy Office により行われました。

この10年計画(STI)は、タイ政府の科学技術の振興の柱となるもので以下の要素で構成されているということです。

1. 知識集約型社会の構築
2. イノベーションを通して STI の活用と商品化
3. 低炭素社会を達成し持続可能な開発を進める
4. 新たな科学技術を通してグリーン イノベーションを促進する
5. 各セクターごとに明確な到達目標の設定
6. STI を通して地域社会のイノベーションを促進し生活の質の向上を図る

Dr. Yada は、発表の最後に、STI に含まれる分野の中で、日本との協力を推進できる分野として以下を提案しています。

/Space Technology

/ High Speed and urban rail technology

/ Bio-based alternative energy

/ Technologies for climate change adaptation and mitigation

/ Talent mobility between Japan and Thailand

/ Promotion of R&D Centers



あさひさんのタイ燦々



突然ですが、私の名前は「アサヒ」と言います。漢字はともかく、由来は言わずもがな rising sun から来ています。私の苗字はタイ人にとって少し発音しづらいため、自己紹介するときにはいつも「アサヒ」で通しています。

あるときタイ人から名前の意味を聞かれたため、上記のように答えたところ、それ以来その人からはタイ語で rising sun を意味する“アンスマリン”というニックネームで呼んでもらうことになったのですが、この名前、実はタイではかなり有名らしいのです。

タイの女流作家トムヤンティによって 30 年以上前に発表された小説『クー・カム（邦題：メナムの残照、英題：Sunset at Chaophraya）』は、第二次世界大戦中のバンコクを舞台とした、タイ人女性と日本の軍人との悲恋を描いた物語です。その主人公の美しい女性の名前が“アンスマリン”なのです。とても人気の物語で何度も映画化され、テレビドラマやミュージカルにもなっています。アンスマリンの相手の男性は「コボリ」という名で、敵から見てもあっぱれの素晴らしい人間として描かれています。タイの国民的歌手・俳優のバード・トンチャイも映画やドラマでこの役を演じて大ヒットしており、今でも多くのタイ人が知っています。

ですがこのアンスマリン、美しい一方かなり気の強い女性で、それゆえの悲恋でもあるわけです。はてさてこの名前と呼ばれることは誉れに思っていることなのかどうか、なかなか悩ましいところです。

ちなみに、一時期は日本人男性を「コボリ」というニックネームで呼ぶことが流行したとのこと。日本人男性の方は逆に、自分から「コボリ」と名乗ってみると、タイ人との会話が弾むかもしれませんよ。





カイさんのタイご案内



タイ北部へ行くとしたらチェンマイ (Chiang Mai) とチェンライ (Chiang Rai)、どちらがお好みでしょうか？私が好きなのは、より静かで穏やかなチェンライです。

お勧め場所が2つあります。一つはタイの著名な芸術家 Mr. Chalermchai Kositpipat が 1997 年から建設に取り組んでいる Wat Rong Khun で、白いお寺として知られています。伝統的にお寺は金または金色で飾られますが、ブッダの高潔を示すものとして白を選んだそうです。完成までにはまだ 60 年から 70 年かかるといわれていますが、「死だけが私を止められる。しかし死をもってしても私のプロジェクトは止められない」と Mr. Chalermchai は言います。

お寺は一見光り輝く陶器でできているようですが、近づいてみると漆喰と小さな鏡面であることがわかります。地面から伸びる無数の腕の像（欲の象徴）の上にかかる橋を渡ってお寺の中に入ると、そこには伝統的にそうであるようなブッダの一生の絵物語ではなく、サムサラ（再生と混沌）を示す現代的なシンボルが描かれています。ツインタワーに突っ込む飛行機、ドラえもん、スーパーマン、ウルトラマンなどです。



二つ目は、**Baan Dam Museum**、直訳すると黒い家博物館です。こちらもタイの有名芸術家 Mr. Tawan Datchani によるもので、16 万平方メートルの広大な敷地に 40 棟のランナ様式の建物がならぶフォルク・アートの博物館です。トーテムポールのような木の彫像、木製のテーブル、動物の皮革製品などが所狭しと並んでいます。



■韓国 LG 社と KMITL が奨学金制度

キングモンクット工科大学ラックラバン(KMITL)の工学修士学生4名がLG社のLife's Good奨学金を受けることになった。額面は20万バーツ。LG社のタイ法人によるKMITL工学部との“Empowering Tomorrow's Leaders”協定にもとづくもの。

LG社タイ法人のThunyachate Ekvetchavit 営業部長は言う。タイの若者への支援は、ワールドクラスの技術と製品で持続可能な社会に発展するというLGのビジョンにかなうものである。

Life's Good奨学金プログラムは毎年4名の修士学生に対し3年間支給される。年間20万バーツなので、合計で240万バーツの負担となる。

LG社とKMITL工学部の協働関係はこれだけにとどまらない。スマートテレビのアプリ・コンペも開かれている。また、LG社の技術者によるテクノロジーワークショップも開催予定。これらのもととなる協定は昨年締結された。

(7月7日 Nation 紙)

■EU がタイの学生・研究者に奨学金

奨学金付与の対象には、工学、自然科学、国際関係、公共政策、林学、建築、人文芸術と分野が含まれる。2004年のエラスムス・ムンドゥス計画発足以来、すでに400名を超えるタイ学生や研究者がそうした資金援助を受けている。

表彰式典において、David Lipman 在タイ EU 大使は「毎年、世界的な競争を勝ち抜いた優秀なエラスムス・ムンドゥス学生や研究者がヨーロッパに渡る。彼らこそが学術交流を通じてヨーロッパとタイの関係性を深めていく。ヨーロッパに暮らし、ヨーロッパの言語を話す。これ以上の国際交流があるだろうか」と言う。

受賞者のうち40名がヨーロッパの大学で学ぶことになる。残りはタイの提携校に行く。また他にも EU 内で最高ランクのフルタイム修士・博士課程に進む学生も7名いる。2012年は、全世界で1,298名の修士課程大学院生、197名の博士課程大学院生に本奨学金が付与されている。

(7月23日 Nation 紙)

■タイの研究予算 実質減

タイ貢献党が中心を占める現政府の長期目標は、年間の研究予算を2%に引き上げることだが、2013年度予算では0.18%にとどまることになった。

タイの来年のGDPは11兆バーツと見込まれており、2013年度予算全体2兆バーツのうち研究予算には97億バーツが当てられる。民間セクターの研究予算が100億バーツで、合計197億バーツ。これがGDPの0.18%に相当する。これではここ数年に比べて減少しているようなものだ、とタイ国家学術会議(NRCT)のDr. Soottiporn 事務局長は言う。

NRCT 自体としては、10分野に3億ドルの研究資金をあてる意気込みで35億バーツを要求したが、認められたのは10億バーツのみであった。これでは研究をベースとした国家としての技術革新はとん挫する。今後4年のうちに民間セクターが半分を負担することで、GDPの2%まで研究予算を引き上げるという政府目標は不可能だ。GDPの2%ということは2000億バーツということで、それは現在の10倍にあたるのだ。とDr. Soottiporn 事務局長は言う。

今の10倍研究費を使うには研究者がたらな過ぎる。もっと現実的な可能性としては、2015年にGDPの0.5%まで引き上げることだろう。約300億バーツだ。そして、2017年にNRCTの予算としてGDPの1%を目指す。将来、研究開発予算が15億バーツにとどまるようであれば、国営企業体からの予算の提供を

求めるべきだ。それらの収益のうち 2%を研究予算に回すような、と事務局長は言う。

(8 月 25 日 Nation 紙)

■新たな奨学金の枠組み

政府は教育研究機関に対する新たな奨学金の枠組みを発表した。それは後々に民間部門おも対象とするものであった。というのも、多くの研究成果がお蔵入りし生かされていない。そこで、新たな奨学金は産業や貿易と関連するビジネス主導の研究課題に振り向ける、とインラック首相は言う。

(8 月 28 日 Nation 紙)

日本学術振興会バンコク研究連絡センター
の位置



日本学術振興会バンコク研究連絡センター/JSPS Bangkok Office

1016/1, 10th floor, Serm-mit Tower, 159 Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110, Thailand

tel +66-2-661-6533 fax +66-2-661-6535